

第6章 不安、関心、満足度

東京大学大学院教授 武川正吾

悩みやストレスの有無 (Q54)

1 各国の特徴とその変化

本調査では「あなたは、現在、日常生活で悩みやストレスなどがありますか」との質問を行っており、その回答を「大いにある」「少しはある」「まったくない」のなかから選んでもらっている。今回の調査結果を示したのが、表6-1である。

表6-1 日常生活における悩みやストレスの有無

(%)

		全体	大いにある	少しはある	まったくない	無回答
実施国	日本	1183	6.3	45.2	48.4	-
	韓国	1005	16.7	45.3	38.0	-
	アメリカ	1000	10.9	45.6	43.5	-
	ドイツ	1004	11.3	59.4	28.9	0.5
	スウェーデン	1054	4.7	30.6	64.7	-

前回調査では、スウェーデンの代わりにフランスが入っていた。前回の5か国のなかでは、悩みやストレスが「大いにある」と答えたひとの割合は、日本が最も少なく(5.7%)、韓国が最も多かった(15.5%)。反対に、悩みやストレスが「まったくない」と答えたひとの割合も日本が55.2%で最も多く、ドイツが26.8%で最も少なかった。前回の5か国のなかでは、日本の高齢者は、悩みやストレスを感じる事が最も少なかったわけである。

ところが今回の調査では、スウェーデンが入っているために、事情が変わった。日本は、韓国やドイツやアメリカに比べれば、悩みやストレスが「大いにある」と答えたひとの割合は6.3%と少ないが、スウェーデンは4.7%と、それよりさらに少ない。この点は、悩みやストレスが「まったくない」と答えたひとの割合に着目すると、さらに顕著である。日本では悩みやストレスが「まったくない」と答えているのが48.4%であるのに対して、スウェーデンは何と64.7%である。とはいえ、日本が他国に比べて悩みやストレスを感じる

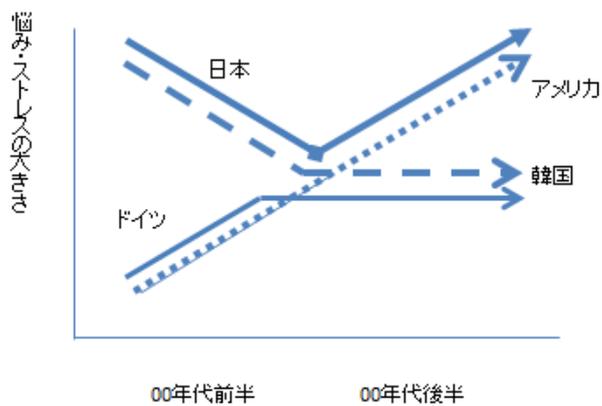
ひとが特に多い国というわけではない。悩みやストレスを感じるのは韓国(16.7%)やアメリカ(10.9%)やドイツ(11.3%)の方が日本(6.3%)より相当多いし、反対に、悩みやストレスをまったく感じないひとは、日本(48.4%)の方がアメリカ(43.5%)、韓国(38.0%)、ドイツ(28.9%)に比べて多い。要するに、スウェーデンと日本が悩みやストレスを感じるひとの比較的少ない国であり、ドイツ、韓国、アメリカが比較的多い国である。したがって悩みやストレスの有無に関しては、欧米か東アジアかということによる違い(しばしばキリスト教や儒教に結びつけられて主張される欧米か東アジアかというような違い)は、あまり見られないということである。

以上のスナップショットも、10年間の時間の流れの中で見ると、また違った様相を帯びてくる。というのは、日本の場合、悩みやストレスの「大いにある」ひとの割合は若干増えており(5.7%→6.3%)、「まったくない」ひとの割合はかなり減っているからである(55.2%→48.4%)。前回調査〔第6回調査〕の報告書では「東アジアの日本と韓国は前回調査〔5回調査〕のときよりも悩みやストレスのあるひとの割合が減り、悩みやストレスのないひとの割合が増えている」と記したが、第7回調査と第6回調査を比べると、韓国の場合あまり変化が見られないのに対して、日本では明らかに悩みやストレスのないひとの割合が減っている(「大いにある」は韓国が15.5%→16.7%、日本が5.7%→6.3%だが、「まったくない」は韓国が38.6%→38.0%であるのに対して、日本は55.2%→48.4%)。言い換えると、21世紀に入ってからの日本の10年間は、前半の5年間ではストレスや悩みの感じ方が軽減されたのに対し、後半の5年間では逆に増えたということである。

他の国の場合はどうだろうか。前回調査の報告書では「(第5回調査と第6回調査を比べると)欧米のアメリカとドイツの場合には、悩みやストレスのあるひとの割合が増えて、悩みやストレスのないひとの割合が減っている。とくにドイツでの減り方が大きい(65.2%→26.8%)」と述べた。アメリカの場合は、今回、ストレスや悩みが「大いにある」ひとが7.0%から10.9%に増え、「まったくない」ひとが47.2%から43.5%に減っている。つまりアメリカでは00年代の前半と後半で同じ傾向が続いている。これに対して、ドイツは、ストレスや悩みの「大いにある」ひとが13.7%から11.3%に微減し、「まったくない」ひとが26.8%から28.9%に微増している。00年代前半における変化の大きさを考慮に入れると、ドイツの場合、前半と後半で傾向が逆転したというよりは、悩みやストレス感が上げ止まった、あるいは、悩みやストレスをまったく感じないひとの割合が下げ止まったという方が良いかもしれない。

まとめると次のようになるだろう。21世紀の最初の10年間（つまり過去3回続けて調査対象となった国についてみると）日本以外の国では、悩みやストレスが前半と後半で一貫して増えている場合（アメリカ）、前半で増えたが後半で増え方が止まった〔弱まった〕場合（ドイツ）、前半で減ったが後半ではあまり変化が見られない場合（韓国）があるが、日本の場合は、悩みやストレス感が前半には減ったが、後半に増えている、ということになる（図6-1を参照。ただしこれはあくまでイメージ図であることに注意）。とはいえ日本が、スウェーデンとともに、高齢者の悩みやストレスが比較的少ない国であり続けていることには注意する必要がある。これから先、日本の高齢者が他国並みに悩みやストレスを感じるようになるのか否かについては、現在の時点では何とも言えない。

図6-1 00年代における悩みやストレスの変化のパターンのイメージ



注:悩みやストレスの絶対的な多さ少なさを示すものではない

2 男女別・年齢別にみた特徴

次に、日本を中心に、悩みやストレスの有無を属性別にみていこう。

いずれの国も、男性の方が悩みやストレスを感じるものが「まったくない」と回答する傾向にある、言い換えると女性の方が男性よりも悩みやストレスを感じる傾向にある（ただし日本の場合は、他の国に比べると男女差が小さい）。スウェーデンの場合は男性が70.3%であるのに対して女性が59.3%、以下同じ順番で、日本は50.0%と47.1%、アメリカは50.8%と38.0%、ドイツは35.4%と24.0%、韓国は41.6%と35.3%となっている。これは前回の調査結果とも共通する点である。

日本について、性別・年齢別に悩みやストレスの有無をみたのが表6-2である。

表6 - 2 性・年齢別にみた日常生活における悩みやストレスの有無

(%)

		全体	大いにある	少しはある	まったくない	無回答
	【総数】	1183	6.3	45.2	48.4	-
〔性・年齢別〕	男性 60～64歳	139	7.2	44.6	48.2	-
	65～69歳	124	4.8	42.7	52.4	-
	70～74歳	117	3.4	47.9	48.7	-
	75～79歳	98	6.1	38.8	55.1	-
	80～84歳	45	8.9	51.1	40.0	-
	85歳以上	15	-	46.7	53.3	-
	女性 60～64歳	166	7.2	61.4	31.3	-
	65～69歳	144	2.8	48.6	48.6	-
	70～74歳	127	7.1	45.7	47.2	-
	75～79歳	95	8.4	36.8	54.7	-
	80～84歳	80	12.5	27.5	60.0	-
	85歳以上	33	6.1	27.3	66.7	-

「まったくない」ひとに着目すると、女性の場合、85歳以上はサンプル数が少ないので除外して考えた方が良いが、それでも年齢が上昇するにつれて、悩みやストレスを感じるものの「まったくない」回答者の割合が増加している。60代前半では31.3%だが、80代前半になると60.0%である（85歳以上は66.7%）。一般的な言い方をすると、前期高齢層（ヤング・オールド）よりも後期高齢層（オールド・オールド）の方が悩みやストレスを感じることが「まったくない」ひとの割合が多い。

ところが「大いにある」に注目すると、傾向は逆転する。60代前半では、「大いにある」ひとは7.2%に達するものの、60代後半では2.8%にまで減る。その後、上昇を続け、80代前半では12.5%にまで増える。つまり女性の場合、前期高齢層よりも後期高齢層の方が悩みやストレスを「大いにある」と感じる割合が多い。

上の二つの点を合わせて考えると、女性の場合、年齢の上昇とともに、悩みやストレスの感じ方が両極化すると言えそうである。実際、「少しはある」という回答は60代前半から80代にかけて一貫して減少している。

これに対して男性の場合は、一貫した傾向を見出すのがむずかしい。「大いにある」に着目すると、60代前半から前期高齢層の間は、年齢とともに悩みやストレスを感じる割合が減少するものの、後期高齢層に入ると、この傾向が逆転する。ただし80歳以上はサンプル数も少ないので、確かなことは言いにくい。「まったくない」という回答の方は、年齢による変化が、さらに不分明となっている。70代後半は、前期高齢層に比べて両極化していると言えそうだが、これも確実ではない。

年齢と悩みやストレスの感じ方の関係については、複数のメカニズムが関係しているからであろう。一方で、もともと悩みやストレスに強いひとは長生きすることができるならば、年齢が上昇するとともに、悩みやストレスを感じるものが「まったくない」と回答するひとの割合が増えるのは当然ということになる（実際、女性の場合はそうなっている）。しかし、他方で、悩みやストレスを生み出す客観的条件が年齢の変化との関係で変化することがあれば、それによって、悩みやストレスを感じるひとの割合は影響を受けることになる。現在の高齢者は、男性と女性で平均余命が異なり、また社会的条件も異なっている。例えば、経済的困窮に陥る確率、ライフコース（人生の進み方）、社会的役割、単身生活を送る確率、等々。これらの絡み合いが男性の場合の（一見した）不規則性を生み出している可能性はあると思われる。

3 家族形態別にみた特徴

家族形態別にみた場合はどうであろうか。これは国による違いが見られる。悩みやストレスが「まったくない」ひとに注目すると、日本の場合は、いちばん多いのが「単身世帯」（54.3%）で、次が「3世代世帯」（53.7%）となっていて、両者がほぼ並ぶ。これに対して「夫婦のみ世帯」（45.3%）と「夫婦と未婚の子ども」（46.2%）では、悩みやストレスの「まったくない」ひとは少ない。

これに対してスウェーデンは、そもそも家族形態の類型が少なく、ほとんどの高齢者が「単身世帯」か「夫婦のみ世帯」に属していて、しかも日本とは反対に、「夫婦のみ世帯」（66.8%）の方が「単身世帯」（60.7%）よりも、悩みやストレスの「まったくない」ひとの割合が多い、という結果になっている。両国の家族のありかたの違いが窺い知れる。

アメリカも、ストレスや悩みの「まったくない」のは、「夫婦のみ世帯」（48.7%）、「単身世帯」（45.1%）、「3世代世帯」（44.4%）、「夫婦と未婚の子ども」（30.8%）と続く（ただし後二者はサンプル数が少ない）。スウェーデンと同様、「夫婦のみ世帯」の方が「単身世帯」より悩みやストレスが少ない。

ドイツはどうだろうか。悩みやストレスの「まったくない」ひとについては、「単身世帯」（29.5%）と「夫婦のみ世帯」（29.8%）でほとんど差がない。しかし、悩みやストレスが「大いにある」ひとに着目すると、前者（15.0%）の方が後者（7.3%）より圧倒的に多い。ドイツでも、スウェーデンやアメリカと同様、夫婦で同居して生活している方が、悩みやストレスが少なくなる効果をもつと見ることができる。

同じく東アジアに位置する韓国の場合にはどうか。韓国は欧米諸国と異なり、家族形態は多様である。悩みやストレスが「まったくない」のは、多い方から「3世代世帯」(42.5%)、「夫婦のみ」(41.3%)、「単身世帯」(37.4%)、「夫婦と未婚の子ども」(35.9%)となっている。「3世代世帯」で悩みやストレスの「まったくない」ひとが多いのは日本と共通だが、「単身世帯」と「夫婦のみ」の順序は日本と異なり、スウェーデン、アメリカ、ドイツと同じである。また、悩みやストレスの「大いにある」ひとの割合は、韓国の場合、単身世帯で多い(20.4%)。

以上の国際比較のなかで考えると、日本の場合、悩みやストレスに対する家族との同居の影響の出方が一様ではないことがわかる。「3世代同居」、つまり子どもや孫と同居している高齢者の間では悩みやストレスは「まったくない」ひとが多いが、配偶者とのみ同居している場合には、逆に、悩みやストレスを「まったくない」と答えるひとが少ない。後者の点は、他の四か国と異なる特徴である。

以上の日本の特徴は男女差が関係しているようにも思われる。つまり一人暮らしの高齢者は男性より女性の方が多く、しかも、女性の場合、「夫婦のみ」のときは夫の世話があって、ストレスや悩みを感じやすくなるが、一人暮らしになるとそうした「義務」から解放されて、ストレスや悩みもなくなるという仮説である。しかし、表6-3をみるとわかるように、絶対的な水準の違いはあるものの、「単身世帯」と「夫婦のみ」との順序は、男女で共通している。

表6-3 性・家族形態別にみた日常生活における悩みやストレスの有無

		(%)				
		全体	大いにある	少しはある	まったくない	無回答
** [総数] **		1183	6.3	45.2	48.4	-
〔性・家族形態別〕	男性 単身世帯	44	6.8	34.1	59.1	-
	夫婦のみ	220	3.6	50.5	45.9	-
	夫婦と未婚の子ども	117	9.4	39.3	51.3	-
	3世代世帯	73	5.5	38.4	56.2	-
	その他	84	4.8	46.4	48.8	-
	女性 単身世帯	107	7.5	40.2	52.3	-
	夫婦のみ	224	7.6	47.8	44.6	-
	夫婦と未婚の子ども	69	5.8	56.5	37.7	-
	3世代世帯	115	5.2	42.6	52.2	-
	その他	130	7.7	44.6	47.7	-

悩みやストレスの内容 (Q55)

1 各国の特徴

次に各国の高齢者が、どのような悩みやストレスを抱えているのかをみていこう。表6-4は、「日常生活で悩みやストレスがありますか」との質問に対して、「大いにある」または「少しはある」と答えた人びとが、どのような悩みやストレスを抱えているかを示した表である（したがって、以下の記述は、悩みやストレスを抱える人びとの間で、どのような項目が多いかという点について述べている）。

表6-4 悩みやストレスの内容

															(%)
	全体	家族との人間関係について	友人・知人との人間関係について	話し相手がないことについて	生活費について	自分の介護について	自分の健康や病気について	同居している家族の健康や病気について	家族や親族に対する介護について	遺産相続について	子供や孫の将来について	仕事のことについて	その他	無回答	
日本	610	11.8	7.0	3.9	13.8	9.5	41.0	18.5	9.5	2.5	25.1	13.4	6.9	0.2	
韓国	623	22.8	1.8	2.6	42.2	7.4	48.0	20.7	3.4	0.2	21.5	12.8	2.1	-	
アメリカ	565	32.7	11.2	7.6	46.4	32.2	54.2	44.1	23.7	7.6	36.6	13.5	5.0	1.9	
ドイツ	709	21.6	8.2	2.7	17.3	20.6	51.3	33.1	11.4	5.9	42.0	6.1	3.5	4.2	
スウェーデン	372	12.1	4.0	4.3	11.3	15.3	36.0	39.8	12.1	1.6	35.2	17.7	15.9	-	

太字は各国の上位四つ

日本は「自分の健康や病気」について悩みやストレスを感じている人びとが41.0%で最も多く、次いで「子どもや孫の将来について」が25.1%、「同居している家族の健康や病気について」が18.5%、「生活費」が13.8%となっている。前回調査と比較すると、上位三つの順序は入れ替わっていないが、前回多かった「家族との人間関係について」が減り(14.1% 11.8%)、「生活費について」が若干増えて(12.8% 13.8%) 順序が入れ替わった。但し、今回増えた「生活費について」の悩みやストレスも、アメリカ(46.4%)、韓国(42.2%)、ドイツ(17.3%)に比べると少ない。高齢者の悩みやストレスの少ないスウェーデン(11.3%)と比べても、やや多い程度である。また上位4位以内のなかの他の三つの悩みやストレスについても、他国に比べると少ない方である。とくに「同居している家族の健康や病気について」は、5か国で一番少ない。

アメリカの高齢者で一番多いのは「自分の健康や病気について」(54.2%)である。自分の健康や病気については、いずれの国でも上位(1位ないし2位)であるが、アメリカのそれはずば抜けて多く、過去3回の調査でも回を重ねるごとに増えてきた。アメリカの高

高齢者は、日本に比べて、「自分の健康や病気について」だけでなく、「子どもや孫の将来について」(36.6%)、「同居している家族の健康や病気について」(44.1%)、「生活費について」(46.4%)でもストレスや悩みが多い結果となっている。それ以外の項目についても、「仕事のことについて」以外はアメリカの高齢者の方が日本より悩みやストレスが多い。

ドイツの高齢者の間でも一番多い悩みやストレスは、他国と同様、「自分の健康や病気」(51.3%)である。このあと「子どもや孫の将来について」(42.0%)、「同居している家族の健康や病気について」(33.1%)、「家族との人間関係について」(21.6%)、「自分の介護について」(20.6%)が続く。ドイツは、「話し相手がいないこと」や「仕事のことについて」は日本より少ないものの、それ以外の項目では日本よりも悩みやストレスを感じている高齢者が多い。

スウェーデンは、日本と同様に、5か国のなかでは高齢者のストレスや悩みが比較的に少ない国であるが、何が上位にくるかという点では他の国と共通する。「同居している家族の健康や病気について」(39.8%)、「自分の健康や病気について」(36.0%)、「孫の将来について」(35.2%)が他国と同様に多い。「仕事のことについて」(17.7%)が4位に入っているのはスウェーデンの特徴であり、この項目については例外的に他国よりも悩みやストレスが多くなっている。

最後に、同じく東アジアに位置する韓国の特徴について、みておこう。韓国でも「自分の健康や病気について」のストレスや悩みが最も多い(48.0%)。韓国の場合、日本やドイツ、スウェーデンとは異なり、「生活費について」のストレスや悩みが、掲げられている項目のなかで群を抜いて多いのが特徴である(42.2%)。これはアメリカと共通の点である。3位、4位は、「家族との人間関係について」(22.8%)、「子どもや孫の将来について」(21.5%)である。これら二つの項目は、他国に比べて、ずば抜けて多いというわけではない。

2 国際比較

前回調査のときと同様、今回調査でも、スウェーデン以外の各国で最も多い悩みやストレスは「自分の病気や健康について」であった(スウェーデンでも2位ではある)。「子どもや孫の将来について」や「同居している家族の健康や病気について」の悩みやストレスも、各国で共通して多い項目であった。

これとは反対に、「遺産相続について」や「話し相手がいないことについて」の悩みやス

トレスは、各国とも少ないという点で共通している。「友人・知人との人間関係について」も、アメリカでやや高いものの、いずれの国でも上位にはあがっていない。韓国では、この点についての悩みやストレスを感じるひとは、ほとんどない（わずか1.8%）。

国による違いが顕著なのは、以下の点である。

「家族との人間関係について」の悩みやストレスが多いのはアメリカ、韓国、ドイツであり、これに対して、日本やスウェーデンは少ない。前者のグループは2割～3割であるのに対して、後者のグループは1割強にすぎない。これはQ54の悩みやストレスの有無の全体的な傾向（すなわち日本とスウェーデンで少ない）とも一致する。

「生活費について」の悩みやストレスはアメリカと韓国で非常に多い。日本は前回調査より若干増えているものの、5か国のなかではスウェーデンとともに少ない。ドイツもアメリカや韓国に比べると少ないが、日本やスウェーデンに比べるとやや多い。「生活費について」はアメリカと韓国が一つの極にグループを形成し、日本とスウェーデンが反対の極にグループを形成している。そしてドイツが中間的な位置にある。こうした違いは、公的年金制度のありかたの違いとも関係しているように思われる。

「自分の介護について」の悩みやストレスは、アメリカとドイツで多いが、韓国や日本では少ない。スウェーデンは両者の中間である。アメリカは一般的に個人の自己責任の強調される国であるから、「自分の介護」について悩みやストレスを抱きやすいのは理解しやすいが、公的介護保険制度の確立されているドイツでもそれなりの高さにあるという点については意外性がある。スウェーデンも公的な介護サービスは充実しているが、それでも15.3%に達する。「自分の介護」に対する悩みやストレスがアメリカやドイツと違って日韓両国で低いのは、いざというときインフォーマル・ケアに頼れるとの見通しを持つひとが多いからなのかもしれない。ただし、事実としてそれが可能か否かは、また別の問題である。

3 性別・年齢別の特徴

悩みやストレスは性別や年齢によっても異なるであろう。そこで日本に限って、この点を確認しておこう。表6-5は、性別・年齢別にみた悩みやストレスの内容を集計したものである。この表について検討していこう。

		(%)											
		全体	家族との人間関係について	友人・知人との人間関係について	話し相手がないことについて	生活費について	自分の介護について	自分の健康や病気について	同居している家族の健康や病気について	家族や親族に対する介護について	遺産相続について	子供や孫の将来について	仕事のことについて
	【総数】	610	11.8	7.0	3.9	13.8	9.5	41.0	18.5	9.5	2.5	25.1	13.4
〔性別〕	男性	269	10.0	6.7	4.5	15.6	7.8	37.2	16.4	8.9	3.0	26.8	18.6
	女性	341	13.2	7.3	3.5	12.3	10.9	44.0	20.2	10.0	2.1	23.8	9.4
〔年齢別〕	60～64歳	186	11.8	8.1	1.6	15.6	8.6	<u>33.3</u>	18.3	12.4	0.5	26.3	24.2
	65～69歳	133	14.3	9.8	5.3	15.0	8.3	<u>30.8</u>	17.3	13.5	4.5	30.1	12.0
	70～74歳	127	15.0	8.7	5.5	11.8	5.5	38.6	15.7	<u>3.9</u>	3.9	23.6	9.4
	75～79歳	87	9.2	4.6	3.4	18.4	11.5	55.2	19.5	6.9	1.1	23.0	<u>9.2</u>
	80～84歳	59	5.1	-	3.4	<u>6.8</u>	22.0	59.3	22.0	6.8	1.7	22.0	<u>1.7</u>
	85歳以上	18	<u>5.6</u>	-	11.1	-	5.6	83.3	33.3	11.1	5.6	5.6	-

注 太字は全体より4ポイント以上多いもの。アンダーラインは全体より4ポイント以上少ないもの

女性の方が男性よりも悩みやストレスが多いという点については、すでにふれた。日本は他国に比べると男女差がかなり小さいが、それでも、悩みやストレスがある(「おおいにある」+「少しはある」)のは男性が50.0%であるのに対して、女性は52.9%となっている。そして、悩みやストレスの内容についても、日本の場合、男女で似たような傾向を示している。そうしたなかで男女の違いが目立つのは(5ポイント以上の開きがあるのは)、「自分の健康や病気について」(男37.2%、女44.0%)と「仕事のことについて」(男18.6%、女9.4%)である。平均余命や伝統的な役割分担における男女の違いを考えれば、理解しやすい結果ではある。

表6-5のうち、年齢別の部分は、各年齢層のパーセントが全体より4ポイント以上多い場合は太字で示し、4ポイント以上少ない場合は下線を引いてある。一貫した傾向を見出すのはむずかしいが、次の点は言えそうである。

第一に、「自分の健康や病気について」の悩みやストレスは、当然のことながら、年齢の高い人びとの間で多い。後期高齢層では悩みやストレスのある人びとのうち過半数の人びとが、この点を訴えている。反対に、前期高齢層及び60代前半ではこの割合が4割未満に減る。

第二に、「話し相手がないことについて」は85歳以上で多い。ただし、この年齢層はサンプル数が少ないので、確かなことは言いにくい。

第三に、「生活費について」は70代後半で多く、反対に80代で少ない。60代でも15%くらいの人びとが、この点について悩みやストレスを感じている。

第四に、「自分の介護について」は後期高齢層の間で多く、とくに80代前半で多い。

第五に、「同居している家族の健康や病気について」も後期高齢層の間で多く、85歳以上でとくに多い。

第六に、「子どもや孫の将来について」は、いずれの年齢層でも 20 数%だが、60 代後半が 30%を超えていて特徴的である。

最後に、「仕事について」は 60 代前半で一番多く、年齢とともに少なくなっている。とくに 80 歳を超えると、この点について悩みやストレスを感じるひとはほとんどいない。

生きがいを感じる時 (Q56)

1 各国の特徴

表 6 - 6 は、「あなたが生きがい(生きていることの喜びや楽しみを実感すること)を感じるのはどのような時ですか」という問いに対する、各国の高齢者の回答をまとめたものである。この表をみながら、各国の特徴について述べていこう。

	全体	仕事にうちこんでいる時	勉強や教養などに身をいれている時	趣味に熱中している時	スポーツに熱中している時	夫婦団らんの時	子供や孫など家族との団らんの時	友人や知人と食事、雑談している時	テレビを見たり、ラジオを聞いている時	社会奉仕や地域活動をしている時	旅行に行っている時	他人から感謝された時	収入があった時	おいしい物を食べている時	若い世代と交流している時	おしゃれをする時	犬や猫などのペットと過ごす時	(%)
日本	1183	21.0	9.0	39.4	13.5	29.3	48.4	35.7	37.5	7.9	34.7	15.4	9.2	34.3	8.7	13.2	10.4	
韓国	1005	19.7	2.7	10.3	3.2	20.1	61.8	41.9	30.9	4.2	17.1	10.7	30.9	29.0	6.8	6.0	0.8	
アメリカ	1000	28.5	14.3	45.4	12.4	37.9	74.2	63.4	46.1	31.3	48.5	57.7	26.0	49.0	40.1	31.1	29.2	
ドイツ	1004	17.3	11.4	46.4	16.5	41.6	65.3	54.2	36.6	14.7	49.9	40.4	14.2	42.0	17.7	22.0	17.7	
スウェーデン	1054	26.0	6.6	44.1	22.3	60.5	78.7	66.9	40.5	31.8	51.7	54.4	19.0	54.8	38.7	26.1	21.4	

日本の高齢者が生きがいを感じるのが最も多いときは「子供や孫など家族との団らんの時」(48.4%)である。他の四か国でも第一位にあがっているのは「子供や家族との団らんの時」となっていて、この項目は五か国に共通している。この点はスウェーデンの代わりにフランスが調査対象となっていた前回調査のときとも同じ結果である。ただし日本は「子供や家族との団らん」が最も多いといっても、そのパーセントは他の国に比べて相対的に少ないことにも注意する必要がある。他の国は約 10 ポイント(韓国)から約 30 ポイント(スウェーデン)くらいの幅で、日本より「子供や家族との団らんの時」を生きがいとして回答する高齢者が多いからである。韓国や欧米諸国の高齢者の方が日本の高齢者より「子供や孫など家族との団らんの時」を生きがいと感じていることになる。日本で 2 番目に多いのは「趣味に熱中している時」(39.4%)である。さらに「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」(37.5%)、「友人や知人と食事、雑談している時」(35.7%)と続く。

韓国の高齢者も生きがいを感じるのが最も多いときは「家族や孫など家族との団らんの

時」(61.8%)である。二番目は「友人や知人と食事、雑談している時」(41.9%)となっている。この点は、日本よりは多いが、欧米諸国よりは少ない。第3位は「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」(30.9%)であるが、この項目は上位にあがっているものの、日本も含めて他の国よりは低いパーセントである。韓国に特徴的なのは「収入があった時」に「生きがいを感じる」高齢者が30.9%となっていて、項目として第4位にあがっている点である。アメリカも多いが(26.0%)、順位としては下の方である。この点はQ55で、「生活費について」の悩みやストレスがアメリカと韓国で多かったことと対応している。

アメリカでも「子供や孫など家族との団らんの時」(74.2%)に生きがいを感じている人が最も多く、4人に3人の高齢者がそのように感じている計算である。二番目に多いのが「友人や知人と食事、雑談している時」(63.4%)であり、これは日本と異なるものの韓国、ドイツ、スウェーデンなどとは共通の順序である。これに対して、アメリカに特徴的なのは、「他人から感謝された時」が57.7%で第3位となっている点である。スウェーデンも多いが(54.4%)、日本(15.4%)や韓国(10.7%)に比べるとアメリカはこの項目で40ポイント以上多い。また、もう一つのアメリカの特徴は40%以上の人々が生きがいを感じている項目が多いと言う点である。日本の場合、40%を超えているのは「子供や孫など家族との団らんの時」だけであるが、アメリカは、第4位の「おいしい物を食べている時」(49.0%)以下、「旅行に行っている時」(48.5%)、「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」(46.1%)、「趣味に熱中している時」(45.4%)、「若い世代と交流している時」(40.1%)を含めて8項目ある。要するに、アメリカは悩みやストレスを感じるひとが多い反面、生活のいろいろな面で生きがいを感じているひとも多い国だということになる。その意味で、アメリカは日本と対照的である。日本の高齢者は悩みやストレスを感じるものが少ないものの、生きがいを感じる時もそれほど多くないからである。

ドイツも1位と2位はアメリカと同様、「子供や孫など家族との団らんの時」(65.3%)、「友人や知人と食事、雑談している時」(54.2%)となっている。3位に「旅行に行っている時」(49.9%)があがっているのが他国との違いである。もっともアメリカもスウェーデンも上位4位には入っていないが、それぞれ高いパーセントにはなっている。第4位は「趣味に熱中している時」(46.4%)となっている。

スウェーデンの高齢者の生きがいの第一位は「子供や孫など家族との団らんの時」でじつに78.7%に達している。5か国中いちばん多い。第2位も韓国、アメリカ、ドイツと同様に「友人や知人と食事、雑談している時」(66.9%)となっている。この項目もアメリカ

より多く、五か国中最多パーセントである。スウェーデンは「夫婦団らんの時」が 60.5%で、第3位になっている。これは他の国には見られない特徴である。スウェーデンの次に多いドイツと比べても約 20 ポイントの差である。スウェーデンもアメリカと同様、40%以上の項目が多い。第4位の「おいしい物を食べるとき」(54.8%)以下、「他人から感謝された時」(54.4%)、「趣味に熱中している時」(44.1%)、「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」(40.5%)を含めると 8 項目に及ぶ。すでに述べたように、日本は 40%を超えるのは 1 項目だけであるから、スウェーデンも「生きがい」に関して、日本と対照的である。

以上をまとめると、日本、アメリカ、スウェーデンの三国の間で次のような特徴付けができる。

- 日本の高齢者は悩みやストレスが少ないが、生きがいを感じる時も少ない。
- アメリカの高齢者は悩みやストレスは多いが、生きがいを感じる時も多い。
- スウェーデンの高齢者は悩みやストレスも少なく、生きがいを感じる時も多い。

2 性別・年齢別にみた生きがい

表6-7は、日本のデータを性別・年齢別にみた生きがいの違いを示している。男女別のところは、男女で5ポイント以上差があるものを太字で示してある。年齢別のところでは、全体より4ポイント以上多い場合を太字とし、4ポイント以上少ない場合には下線を引いてある。

	全体	仕事にうちこんでいる時	勉強や教養などに身をいれている時	趣味に熱中している時	スポーツに熱中している時	夫婦団らんの時	子供や孫など家族との団らんの時	友人や知人と食事、雑談している時	テレビを見たり、ラジオを聞いている時	社会奉仕や地域活動をしている時	旅行に行っている時	他人から感謝された時	収入があった時	おいしい物を食べている時	若い世代と交流している時	おしゃれをする時	犬や猫などのペットと過ごす時
【総数】	1183	21.0	9.0	39.4	13.5	29.3	48.4	35.7	37.5	7.9	34.7	15.4	9.2	34.3	8.7	13.2	10.4
男性	538	27.0	10.4	43.9	17.7	35.5	47.0	26.4	33.5	10.6	32.9	14.3	8.6	24.2	7.8	4.1	9.1
女性	645	16.1	7.9	35.7	10.1	24.2	49.5	43.4	40.9	5.7	36.3	16.3	9.8	42.8	9.5	20.8	11.5
60～64歳	305	32.5	11.5	41.3	15.7	32.5	48.2	36.4	<u>33.1</u>	5.9	42.0	19.0	12.5	36.1	10.5	16.7	16.4
65～69歳	268	24.3	10.4	45.1	15.7	33.2	47.4	43.3	37.7	11.6	42.5	18.3	13.1	38.8	8.6	16.8	12.7
70～74歳	244	20.9	9.4	40.6	16.0	26.6	51.2	39.3	38.1	12.3	36.5	18.0	8.2	34.4	10.7	12.3	6.6
75～79歳	193	<u>12.4</u>	7.3	35.8	10.4	31.6	52.3	34.2	39.9	5.2	<u>30.6</u>	<u>10.4</u>	5.2	30.6	5.7	<u>7.3</u>	8.3
80～84歳	125	<u>4.0</u>	<u>2.4</u>	<u>32.8</u>	<u>8.0</u>	<u>20.8</u>	44.8	<u>21.6</u>	40.0	<u>3.2</u>	<u>14.4</u>	<u>5.6</u>	<u>2.4</u>	<u>28.8</u>	7.2	9.6	<u>2.4</u>
85歳以上	48	<u>10.4</u>	8.3	<u>20.8</u>	<u>2.1</u>	<u>14.6</u>	33.3	<u>12.5</u>	45.8	<u>2.1</u>	<u>6.3</u>	<u>8.3</u>	6.3	<u>27.1</u>	<u>4.2</u>	<u>8.3</u>	8.3

注 男女別の太字は5ポイント以上の場合、年齢別の太字は全体より4ポイント以上多い場合、4ポイント以上少ない場合が下線となっている

この表をみると、男女で生きがいの順序が異なっているところが興味深い。男性の上位四つは、上から順番に「子供や孫など家族との団らんの時」「趣味に熱中している時」「夫婦団らんの時」「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」となっているが、女性の方の

上位四つは、「子供や孫など家族との団らんの時」「友人や知人と食事、雑談している時」「おいしい物を食べている時」「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」となっている。しかもこれらのうち「仕事に打ち込んでいる時」「夫婦団らんの時」「友人や知人と食事、雑談している時」「おいしい物を食べている時」は男女間で10ポイント以上差がある。伝統的な男女の役割期待が反映されていると言える。反対に男女で差が小さいのは、「勉強や教養などに身をいれている時」「子供や孫など家族との団らんの時」「社会奉仕や地域活動をしている時」「旅行に行っている時」「他人から感謝された時」「収入があった時」「若い世代と交流している時」「犬や猫などのペットと過ごす時」などである。これらの生きがいはジェンダー中立的である。

次に年齢別にみた「生きがい」の特徴をみておこう。「生きがい」の年齢による違いが、この表6 - 7から散見される。

- 第1に、「仕事にうちこんでいる時」に生きがいを感じる人々は60代前半で多いが、前期高齢層になると減り、後期高齢層になるとさらに減っている。年齢とともに仕事の役割から離脱していくさまがうかがえる。
- 「勉強か教養などに身を入れていっている時」は年齢による変化は顕著ではないが、80代になると、この点に生きがいを感じる人々は減少する。
- 「趣味に熱中している時」に生きがいを感じる人々は、60代前半より後半で高く、また80代に入ると少なくなっている。
- 「スポーツに熱中している時」に生きがいを感じる人々は、予想されるとおり、80代で少なくなっている。
- 「夫婦団らんの時」に生きがいを感じる人々の割合は、年齢による違いは少ないものの、80代になると減少する。
- 「子供や孫などの家族との団らんの時」に生きがいを感じる人々は、70代後半で多い。
- 「友人や知人と食事、雑談している時」に生きがいを感じる人々については、「趣味に熱中している時」と同じパターンを示している。
- 「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」に生きがいを感じる人々の割合は、60代前半では少ないが、年齢があがるとやや増える。
- 「社会奉仕や地域活動をしている時」に生きがいを感じる人々は、「友人や知人との食事や雑談」や「趣味に熱中」と同じパターンを示しており、60代前半では少ないが前期高齢層になると増え、後期高齢層になると減る。

- 「旅行に行っている時」は60代で多く、後期高齢層になると減る。
- 「他人から感謝された時」は、「夫婦団らんの時」の場合と同じく、年齢による違いは少ないが、80代になると減る。
- 「収入があった時」も「他人から感謝された時」「夫婦団らんの時」と同じで、80代で少ない。
- 「おいしい物を食べている時」は、60代後半で増え、80代になると減少する。
- 「若い世代と交流している時」に生きがいを感じる人々は、年齢による違いが少ない。
- 「おしゃれをする時」に生きがいを感じる人々は年齢が上昇すると減る。
- 「犬や猫などのペットと過ごす時」に生きがいを感じる人々も、年齢が若いひとの方が多く、高齢になると減る。

以上をまとめると、年齢別にみた「生きがい」にもいくつかのパターンがあることがわかる。一つは、年齢が上昇するにつれて、それを「生きがい」と感じる人々の割合が減っていく項目群である。「仕事にうちこんでいる時」「勉強や教養などに身を入れている時」「スポーツに熱中している時」「旅行に行っている時」「収入があった時」「おしゃれをする時」「犬や猫などのペットと過ごす時」などがこれに当る。「他人から感謝された時」や「若い世代と交流している時」もこれに近い。

二つめは、60代前半よりも前期高齢層で多く、後期高齢層になると少なくなる「生きがい」である。リタイアメントをキッカケに増えるものの、年齢が上昇するとだんだん減少していくということになるのか。「趣味に熱中している時」「友人や知人と食事、雑談している時」「社会奉仕や地域活動をしている時」「おいしい物を食べている時」などが、これにあたる。

三つめは、年齢の高い人々の方が低い人々よりも「生きがい」を感じる割合が大きな項目群である。「子供や孫など家族との団らんの時」や「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」である。その他、「夫婦団らんの時」には年齢差が（単身世帯の割合は増えるにもかかわらず）あまり見られないが、さすがに80代になると減っている。

総合的な生活満足 (Q57)

1 各国の特徴

最後に「総合的な生活満足」(Q57)について検討しておこう。表6-8は、「総合的にみ

て、あなたは現在の生活に満足していますか」という質問に対する回答を、各国別にまとめたものである。

表6 - 8 総合的な生活満足

	全体	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である
日本	1183	36.3	56.4	6.1	1.2
韓国	1005	9.8	59.6	25.2	5.5
アメリカ	1000	71.4	23.3	4.3	1.0
ドイツ	1004	61.1	34.0	4.2	0.5
スウェーデン	1054	69.9	29.3	0.6	0.2

(%)

日本の高齢者は「満足している」が36.3%、「まあ満足している」が56.4%となっており、合計すると、92.7%の人々が現在の生活に満足している。「やや不満である」(6.1%)と「不満である」(1.2%)を合わせると、何らかの不満を感じているのは7.3%である。

これに対して韓国では、「満足している」が9.8%、「まあ満足している」が59.6%で両者合わせて69.4%の人々が現在の生活に満足している。ただし韓国の場合は「やや不満である」が25.2%と多く、「不満である」も5.5%に達している。今回の調査対象5か国のなかでは、それぞれ群を抜いて多い。韓国でも高齢者の多数派は「満足」しているものの、3割の人々が何らかの「不満」を抱いていることになる。

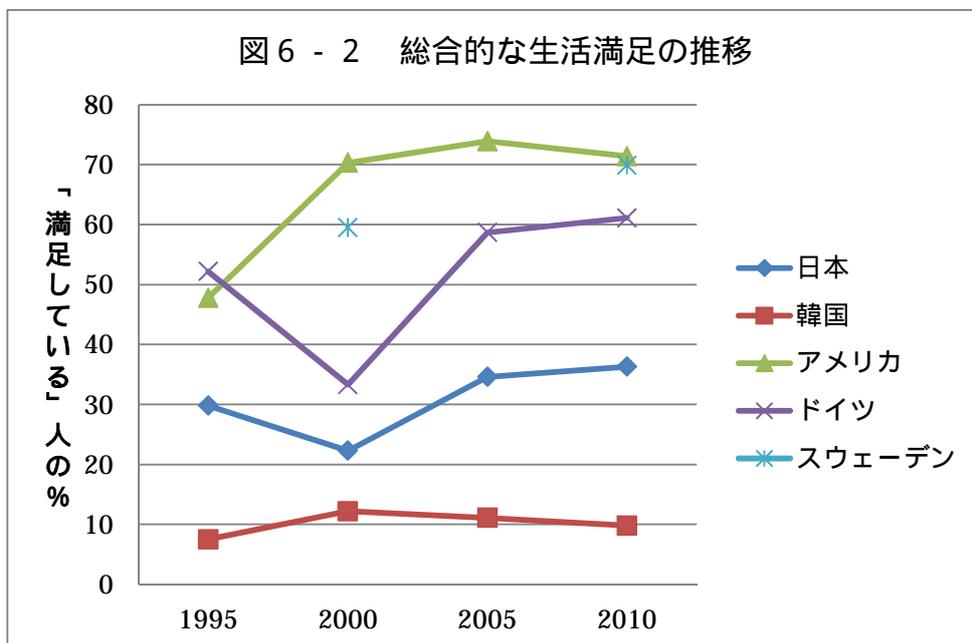
韓国と反対の極にあるのが、アメリカとスウェーデンである。アメリカは71.4%もの人々が「満足している」と答えており、「まあ満足している」も23.3%に及ぶ。両者を合計すると、じつに全体の94.7%の高齢者が「満足」していることになる。「やや不満である」(4.3%)と「不満である」(1.0%)を加えて値も5.3%である。アメリカは、韓国はもちろん日本よりも高齢者の満足度が高く、「不満」を抱いている高齢者が少ない。

スウェーデンは、アメリカよりもさらに満足度が高い。69.9%の人々が「満足している」と答え、29.3%の人々が「まあ満足している」と答えている。合計すると、なんと99.2%である。「やや不満である」(0.6%)も「不満である」(0.2%)もほとんど皆無である。スウェーデンでは高齢者の99%が「総合的にみて、現在の生活に満足」していることになる。

ドイツは、スウェーデンと日本との中間的な位置にあり、前者よりは満足度がやや劣る。ドイツの高齢者も「満足している」(61.1%)と「まあ満足している」(34.0%)を合わせた「満足」が95.1%に達しており(日本の場合は92.7%)、ドイツ人の満足度がけっして低い

わけではない。また「不満」についても、「やや不満である」(4.2%)と「不満である」(0.5%)の合計が4.7%であり、スウェーデンよりは多いものの、韓国(30.7%)はもちろん日本(7.3%)やアメリカ(5.3%)よりは少ない。

以上の5か国の時系列の変化を示したグラフが図6-2である。この図は、過去4回の調査(1995-2010年)で「総合的にみて、生活に満足している」と回答した人びとの値を各国別にプロットしたものである。前回(2005年)の調査報告では、「いずれの国も10年前に比べれば、現在の生活に対する満足の度合いが高まっている」と記した。これは2000年に日本とドイツで「満足」が減ったものの、1995年に比べれば2005年の「満足」が増えていたからである。今回、2010年のデータが付け加わったことによって、前回までの傾向が大きく覆されることはなかった。スウェーデンは10年間に「満足」の割合が10ポイント増えていて、5か国中「満足」の増え方が大きく、特別である。ドイツ・日本はこの5年間で微増、アメリカと韓国はこの5年間で微減であるが、4か国とも5年前と比べると大きな変化は経験していない。各国とも「満足」に関して、2000年前後がやや特別な動きをしていたと考えられる。



2 性別・年齢別にみた総合的な満足

総合的にみた生活満足は、性別や年齢で異なるのであろうか。最後に、日本の場合どうなっているかを検討しておこう。表6-9は、性別・年齢別にみた総合的な生活満足のクロス集計結果である。

表6 - 9 性別・年齢別にみた総合的な生活満足

(%)

		全体	満足して いる	まあ満足 している	やや不満 である	不満であ る
	** [総数] **	1183	36.3	56.4	6.1	1.2
〔性別〕	男性	538	32.3	60.4	5.8	1.5
	女性	645	39.7	53.0	6.4	0.9
〔年齢別〕	60～64歳	305	33.8	59.7	4.6	2.0
	65～69歳	268	34.0	57.5	7.8	0.7
	70～74歳	244	36.1	57.8	4.9	1.2
	75～79歳	193	38.3	54.4	6.7	0.5
	80～84歳	125	41.6	<u>51.2</u>	5.6	1.6
	85歳以上	48	45.8	<u>43.8</u>	10.4	-

注 男女別の太字は5ポイント以上の場合、年齢別の太字は全体より4ポイント以上多い場合、4ポイント以上少ない場合が下線となっている

男性も女性も「総合的にみた現在の生活」に対しては、「まあ満足している」との回答が最も多い。日本人の場合、意識調査に対して両極の回答よりも中間の回答を好みがちだという傾向があるが、今回の満足度調査に関しても「満足している」よりは「まあ満足している」の方が圧倒的に多い結果となった。これは欧米諸国との違いである。そうしたなかでも、男性は女性より「まあ満足している」の回答が7ポイント多く、女性は男性より「満足している」の回答がやはり7ポイント多くなっている。女性の方が男性より、同じく満足でも、満足の度合いが強いと言えるだろう。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて、つまり後期高齢層になると「満足している」の回答が増える。反対に「まあ満足している」の回答は、「満足している」の回答ほど明確ではないが、年齢の低い方で多く、年齢の高い方で少ない。これは年齢が高い方が女性の割合が多いからとも考えられるが、三重クロスをした場合でも、年齢の効果は残っている。例えば、60代前半の女性の「満足している」の回答は33.7%だが、80代前半の女性の「満足している」の回答は47.5%となっている（表は省略）。

以上から、性別・年齢別にみると、女性であるということと、年齢が高いということが、「総合的にみた現在の生活」に「満足している」との回答を増やすことにつながっている。